

# 介護福祉学科



## ■ 介護福祉学科 目次

<b>【人間と社会】</b>	
人間の尊厳と自立	
人間の尊厳と自立	1
人間関係とコミュニケーション	
人間関係とコミュニケーションⅠ	2
人間関係とコミュニケーションⅡ	3
社会の理解	
生活と福祉	4
社会保障制度A	5
社会保障制度B	6
福祉制度研究	7
人間と社会に関する科目	
ボランティア活動	8
介護福祉研究（手話研究）	9
文化活動入門・華道	10
文化活動入門・書道	11
文化活動入門・茶道	12
<b>【介護】</b>	
介護の基本	
介護の基本Ⅰ	13
介護の基本Ⅱ	14
介護の基本Ⅲ	15
介護の基本Ⅳ	16
介護の基本Ⅴ	17
コミュニケーション技術	
コミュニケーション技術Ⅰ	18
コミュニケーション技術Ⅱ	19
生活支援技術	
生活支援技術A（家事支援）	20
生活支援技術B（家事支援）	21
生活支援技術C（基本介護技術）	22
生活支援技術D（基本介護技術）	23
生活支援技術E（症状別介護技術）	24
介護過程	
介護過程総論	25
介護過程展開Ⅰ	26
介護過程展開Ⅱ	27
介護過程展開Ⅲ（事例研究）	28
介護総合演習	
介護総合演習Ⅰ	29
介護総合演習Ⅱ	30
介護実習	
介護実習Ⅰ	31
介護実習Ⅱ	32
<b>【こころとからだのしくみ】</b>	

こころとからだのしくみ	
【Ⅰ】こころのしくみ	33
【Ⅰ】からだのしくみ	34
【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみ A	35
【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみ B	36
発達と老化の理解	
発達と老化の理解Ⅰ	37
発達と老化の理解Ⅱ	38
認知症の理解	
認知症の理解Ⅰ	39
認知症の理解Ⅱ	40
障害の理解	
障害の理解Ⅰ	41
障害の理解Ⅱ	42
<b>【医療的ケア】</b>	
医療的ケア	43
<b>【特設科目】</b>	
国家試験対策Ⅰ	44
国家試験対策Ⅱ	45
<b>【社会福祉主事養成科目】</b>	
法学	46
経済学	47
児童福祉論	48
地域福祉論	49
社会福祉援助技術演習	50
福祉事務所運営論	51
社会福祉施設経営論	52
社会福祉現場実習指導	53
社会福祉現場実習	54

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>人間の尊厳と自立</b> 講義・30時間・2単位	教員名	石川 静葉
概要及び目的	<p>人間の多面的理解、自立・自律した生活を支える必要性や、人間の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解することをねらいとする。</p> <p>人権思想・福祉理念の歴史の変遷や自立の意味を理解し、尊厳の保持や人権尊重および権利擁護の考え方を養う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、「尊厳を守る」「人権を尊重する」こと考え方を説明できる。</li> <li>・介護を必要とする人にとっての自立・自律した生活の意味を理解し、自らの考えを述べる事が出来る。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【人間の尊厳と人権・福祉理念】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉とは</li> <li>2. 「人間」の多面的理解</li> <li>3. 尊厳をまもるとは① 高齢者</li> <li>4. 尊厳をまもるとは② 障害者</li> <li>5. 人権思想の潮流</li> <li>6. 人権や尊厳に関する諸規定</li> <li>7. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷</li> <li>8. 人権尊重と権利擁護</li> </ol> <p><b>【自立の概念】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 自立とは</li> <li>10. 介護における身体的な自立支援</li> <li>11. 介護における精神的な自立支援</li> <li>12. 介護における社会的な自立支援</li> <li>13-14. 人権学習（長島愛生園 見学）</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 80%</li> <li>2. レポート（長島愛生園） 10%</li> <li>3. 出席点 10%</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 I「人間の理解」		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ 講義・30時間・2単位	教員名	鈴木 晶子 中西 貴子 他
概要及び目的	利用者主体の介護を実践するために必要な自己理解、他者理解や集団からの影響、コミュニケーション技術、心理療法的ケアについて、演習も行いながら体験的に学び、理解を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習に真剣に取り組み、体験的な気づきから学ぶことができる</li> <li>・他者理解の際生じやすい傾向や集団からの影響を理解できる。</li> <li>・アンガーマネジメントとアサーションを理解し、実践できる。</li> <li>・対人援助の基本的態度を身につけ、様々な心理療法的ケアについて理解し、利用者の特徴に応じて応用できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己理解</li> <li>2. 他者理解</li> <li>3. 集団の影響</li> <li>4. ストレス</li> <li>5. 防衛機制</li> <li>6. コミュニケーションとは</li> <li>7. アサーション</li> <li>8. 対人援助における基本的態度</li> <li>9. 高齢者に対する心理療法的ケア</li> <li>10. ユマニチュード・回想法</li> <li>11-12. 特徴の応じたコミュニケーションの実際（演習）</li> <li>13-14. 介護実習後の具体的事例を用いたコミュニケーションの振り返り</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 90%</li> <li>2. レポート 10%</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 Ⅰ 「人間の理解」</li> <li>2. 資料</li> </ol>		
備考			

年次・学期	2 年次・ 後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>人間関係とコミュニケーションⅡ</b> 講義・30 時間・2 単位	教員名	中西 貴子 他
概要 及び 目的	<p>介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</p> <p>介護福祉職がチームで関わっていくこと（チームケア）と、チーム内の介護福祉職に対する指導やフォロー等、介護サービスの質の向上や人材の定着が図られるよう、介護福祉士として一定のキャリアを積んだ先にあるチームリーダー等の役割を担うために必要な知識の習得を目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景を説明できる</li> <li>・チーム内での協働の在り方やチーム力を発揮するための取組みを理解し、自分がその一員として関わる意識をもつことができる</li> <li>・授業に積極的に参加し、自分の考えを伝えることができる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューマンサービスとしての介護サービス</li> <li>2. 介護現場で求められるチームマネジメント</li> <li>3. 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み</li> <li>4. 介護サービスと他の仕事の違い、ケアを展開する様々なチーム</li> <li>5. 人材育成のためのチームマネジメント、自己研鑽に必要な姿勢</li> <li>6-7. ケアを展開するために必要なチームとその取り組み、 チームでケアを展開するためのマネジメント</li> <li>8-9. 福祉職場におけるチームでケアを展開するためのマネジメント 介護福祉職のキャリアと求められる実践力</li> <li>10 - 11. 組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の構造と機能や役割</li> <li>12 - 13. 災害や感染症の発生に備えた非常事態の管理 地域におけるチームマネジメント</li> <li>14. 病院における他職種協働・介護福祉職としてのキャリアデザイン</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況（授業態度も含む）40%</li> <li>2. 毎回のレポート提出もしくはノート提出 40%</li> <li>3. 筆記試験 20%</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座   「人間の理解」</li> <li>2. 必要に応じて資料を配布</li> </ol>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>生活と福祉</b> 講義・30時間・2単位	教員名	石川 静葉 太田 修平
概要 及び 目的	<p>個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、理解することをねらいとする。個人と家族、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」「公助」について基本的な考え方を明らかにし、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で捉える視点を養い、地域社会における生活とその支援について、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を身につける。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会における生活と社会福祉について理解する</li> <li>・社会保障の制度や施策について理解する</li> </ul>		
授業内容	<p>【社会と生活のしくみ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の機能と役割</li> <li>2. 生活の基本機能、ライフスタイルの変化</li> <li>3. 社会、組織の機能と役割</li> <li>4. 地域・地域社会と生活支援</li> </ol> <p>【地域共生社会の実現に向けた制度や施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 地域福祉の発展</li> <li>6. 地域共生社会、地域包括ケア</li> <li>7. 地域生活を支援する制度</li> </ol> <p>【障害者保健福祉と障害者総合支援制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 障害者保健福祉の動向、障害者の定義</li> <li>9. 障害者保健福祉に関する制度</li> <li>10. 障害者総合支援制度</li> </ol> <p>【介護実践に関連する諸制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 個人の権利を守る制度</li> <li>12. 保健医療に関する制度</li> <li>13. 貧困と生活困窮に関する制度</li> </ol> <p>【高齢者保健福祉】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 高齢者保健福祉の動向と関連する法体系</li> <li>15. まとめ・終講試験</li> </ol>		
評価方法	試験 100% (石川 50%、太田 50%)		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座</li> <li>2. 「社会の理解」</li> </ol> <p>2. 必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>社会保障制度 A</b> 講義・15 時間・1 単位	教員名	大田 晋
概要 及び 目的	<p>介護保険制度と障害者総合支援制度がどのような社会的背景で創設され、どのような考え方で組み立てられているかを理解させる。</p> <p>次にそれぞれの制度の基本用語、基本構造さらに制度概要を学び、制度の利用者の立場に立ってサービスの種類、利用手続き、費用負担、注意すべき事柄などを説明する。</p>		
到達目標	<p>高齢者や障害のある人が生活の中でどのような支援を求めているか（ニーズ）を理解する。次に介護保険制度、障害者総合支援制度が提供しようとするサービス（ニーズ）がそうしたニーズにどのようにこたえようとしているか（制度の仕組み）、また、利用するための手続き、費用負担など現実的に問題となることも学ぶ。</p>		
授業内容	<p>【介護保険制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険制度が作られた背景～高齢社会と介護ニーズ</li> <li>2. 介護保険制度の全体像（概要）</li> <li>3. 介護サービスの種類と内容／介護サービス提供者（事業者と施設）</li> <li>4. 介護サービスの利用～要介護認定、ケアマネジメント、利用者負担、支給限度額</li> <li>5. 介護費用・財源、介護報酬</li> <li>6. 地域支援事業など</li> <li>7. 介護保険制度を支えるさまざまな仕組みと組織</li> <li>8. 終講試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（70%）</li> <li>2. 作成ノートの点検による理解度を評価（20%）</li> <li>3. 学習態度（10%）</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」</li> <li>2. 配布資料（講義プリント）</li> </ol>		
備考	<p>介護保険についてはA 4 版ノートを用意し、配布される講義プリントをノート左側に貼り、右側に講義を聞いてノートをとる。</p>		

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>社会保障制度 B</b> 講義・15時間・1単位	教員名	齋藤 真智子
概要及び目的	<p>社会保障の歴史、その動向を理解し、社会保障が自分自身の生活とどのように関連しているのかなどを介護実践に活用できる知識として学ぶことを目的としている。</p> <p>介護福祉士として、生活を支えていくために理解しておかなければならない様々な観点から社会保障のしくみをおさえる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障のしくみ、意義・目的、機能・役割について理解できる。</li> <li>・社会保険に基本的な内容について理解できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障の基本的な考え方</li> <li>2. 社会保障の現状、社会保障の制度の体系・機能・方法</li> <li>3. 年金保険制度</li> <li>4. 医療保険制度</li> <li>5. 雇用保険制度</li> <li>6. 労働者災害補償保険制度</li> <li>7. その他の諸制度</li> <li>8. まとめと試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（95%）</li> <li>2. 出席点（5%）</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」</li> <li>2. 配布資料</li> </ol>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>福祉制度研究</b> 講義・30時間・2単位	教員名	石川静葉 他
概要及び目的	<p>本講義では、1年次の「生活と福祉」「社会保障制度A」「社会保障制度B」で学んだ制度や政策を振り返りながら、実用的に考えることができるように事例を交えながら学び実践に生かせる知識を提供する。</p> <p>また、介護福祉士の役割である、家族へのアドバイスにも役立つようにグループワーク等で実践に向けて考えていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度や社会保険について理解し、他者に説明できる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度の基礎</li> <li>2. 社会保険（年金保険）</li> <li>3. //（医療保険）</li> <li>4. //（介護保険）</li> <li>5. //（雇用保険、労働者災害補償保険）</li> <li>6. 生活保護</li> <li>7. 介護・福祉に関するさまざまな言葉の理解</li> <li>8. 障害者総合支援法①</li> <li>9. // ②</li> <li>10. 介護・福祉の制度、政策を総合的に学ぶ①</li> <li>11. // ②</li> <li>12. // ③</li> <li>13. // ④</li> <li>14. // ⑤</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（95%）</li> <li>2. 出席点（5%）</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2「社会の理解」</li> <li>2. 配布資料</li> </ol>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>ボランティア活動</b> 講義・演習・30時間・1単位	教員名	齋藤 真智子 他
概要 及び 目的	<p>地域における様々なボランティア活動に目を向け、体験することで「共生」の意義を考え、人と関わることの楽しみや人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>我が国の伝統芸能である銭太鼓の基礎を学び、地域での発表につなげる。また、隣接施設の利用者の方との交流を行う。そして、人間関係や共同作業の楽しさを学び、他者を思いやる心を育み、地域社会を形成するひとつの存在として、自分自身が社会的な価値や役割を持っていることを自覚する。</p>		
到達目標	<p>・ボランティア活動を通して、喜ばれる自分を発見し、ボランティアの心を理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：科目の予定と内容</li> <li>2. 身近なボランティア：隣接施設での清掃・草取りなど</li> <li>3. 銭太鼓 基本講習会</li> <li>4. 銭太鼓披露に向けて（練習①）</li> <li>5. // （練習②）</li> <li>6. // （練習③）リハーサル</li> <li>7. 銭太鼓お披露目会①</li> <li>8. // ②</li> <li>9. // ③</li> <li>10. レクリエーションを学ぼう①</li> <li>11. // ②</li> <li>12. ユニバーサルスポーツを体験しよう①（ボッチャ）</li> <li>13. // ②（ // ）</li> <li>14. // ③（卓球バレー）</li> <li>15. まとめとレポート（歌の発表をしよう）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・提出物（30%）</li> <li>2. 授業に取り組む姿勢・積極性（30%）</li> <li>3. レポート（30%）</li> <li>4. 歌の発表（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>テキストなし ※必要に応じて資料を配布する</p>		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護福祉研究(手話研究)</b> 講義・演習 30時間・1単位	教員名	大江 朝美 山根 淑子
概要及び目的	手話、聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する制度等についての理解と認識を深めるとともに、簡単な手話が理解でき、手話表現技術を習得する。全国手話検定4・5級の取得をめざす。		
到達目標	相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話が可能なレベル。 簡単な日常会話を行うのに必要な手話単語(目標語彙数300語)を習得し、必要な手話表現技術を習得する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義) ①聴覚障害の基礎知識、②聴覚障害者の生活</li> <li>2. ③手話の基礎知識</li> <li>3. 実技) (手話表現の基礎) ——伝えあってみましょう</li> <li>4. (手話表現①) ——名前を紹介しましょう</li> <li>5. (手話表現②) ——家族を紹介しましょう</li> <li>6. (手話表現③) ——数を使って話しましょう</li> <li>7. (手話表現④) ——趣味について話しましょう</li> <li>8. (手話表現⑤) ——仕事について話しましょう</li> <li>9. (手話表現⑥) ——住所を紹介しましょう</li> <li>10. (手話表現⑦) ——自己紹介しましょう</li> <li>11. (手話表現⑧) ——1日のことを話しましょう</li> <li>12. (手話表現⑨) ——1か月・1年のことを話しましょう</li> <li>13. (総合まとめ①) ——実技のまとめ</li> <li>14. (総合まとめ②) ——介護場面での会話を学びましょう</li> <li>15. 試験 (手話表現・読み取り・基礎知識)</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 90%</li> <li>2. 授業態度・出席点 10%</li> </ol>		
テキスト	その都度、関連資料を配布 全国手話研修センター「手話を学ぼう手話で話そう」		
備考			

年次・学期	1年次・6月～11月	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>文化活動入門・華道</b> 講・演・30時間・1単位	教員名	石川 静葉
概要及び目的	日本の伝統文化である華道（生け花）は、樹枝・草花などを花器に生け、その美しさや命の尊さを表現し観賞する芸術である。花や草木と向き合い、触れたり生けたりする中で、命あるものを慈しみ、介護福祉士としての豊かな心と感性を養う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花ばさみ、剣山、花器の使い方と使った後の手入れができる</li> <li>・花材（花、草、木）の名前や特徴について覚える</li> <li>・作品をスケッチし記録に残す</li> <li>・基本の盛花をひとりで生けることができる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（授業の目的と内容、生け花の歴史等） 実技について（教材、道具、切り方、水切り、挿方等の説明と実践）</li> <li>2～8. 自由花、盛花、瓶花、生花</li> <li>9～11. 学院祭発表作品</li> <li>12～13. 盛花（書道、茶道の選択学生の生け花体験を補助することで学びを深める）</li> <li>14～15. 高齢者との交流会（高齢者と一緒に作品作り）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の評価・受講態度（80%）</li> <li>2. 提出物「華道活動日誌」（10%）</li> <li>3. 出席状況（10%）</li> </ol>		
テキスト	配布資料・プリント		
備考			

年次・学期	1年次・6月～11月	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>文化活動入門・書道</b> 講・演・30時間・1単位	教員名	寺谷 和子
概要 及び 目的	<p>日本の伝統文化である書に対する教養を深める。          実技実習を通して、書の基礎技能の習得を図り、あわせて文房四宝（筆・墨・硯・紙）について理解を深める。          生活の書に取り組み、日常の暮らしの中で、毛筆が活用できるようにする。          自分で作品を作る喜びを体験するとともに、集中力を高める。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を素材として書で自己表現できるようになる。</li> <li>・日常生活において書に親しむ心が養えるようになる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（実習の目的と内容、教材、教具等の説明） 文字の簡単な歴史・文房四宝について理解する。</li> <li>2. 小筆を用い、自分の名前を楷書・行書で書く。</li> <li>3. 古典の法帖をもとに、楷書・行書の基礎を学ぶ。</li> <li>4. 半紙に楷書・行書で作品を書く。</li> <li>5. 漢字とかなの調和を図り、作品を書く。</li> <li>6. 雅印について学び、消しゴム印を作る。</li> <li>7. 生活の書（小筆）、慶弔句について学び熨斗袋に書く。</li> <li>8. 作品制作。学院祭展示作品について課題選びをする。</li> <li>9. 作品制作。半紙・半切に試作する。</li> <li>10. 作品制作。展示作品の完成をみる。</li> <li>11. 生活の中の書作品、カレンダーなどの制作をする。</li> <li>12-13. 作品制作（華道、茶道を選択した学生の書道体験を補助し学びを深める）</li> <li>14-15. 高齢者施設との交流会（高齢者と一緒に作品制作）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品提出点 90%</li> <li>2. 出席点 10%</li> </ol>		
テキスト	<p>九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢 中国法書選 33 二玄社          神龍半印本蘭亭序 東晋 王羲之 中国法書選 33 二玄社          配布資料・プリント</p>		
備考	<p>学院祭に作品を展示する。</p>		

年次・学期	1年次・6月～11月	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>文化活動入門・茶道</b> 講・演・30時間・1単位	教員名	中嶋 弥生
概要及び目的	四季あります日本の文化の1つの茶道を通じて、少しでも礼儀作法や所作を学び、時代は変化しても現代に通じるおもてなしの心を学ぶ事を目的にしています。これから従事する信頼関係の職場に活用できる事が目標。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季の年中行事を説明できる</li> <li>・礼儀作法の意味を理解し、必要な所作を身につけ実践できる</li> <li>・おもてなしの心を理解し、ミニ模擬お茶会で実践できる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（授業の目的と茶道の歴史等）</li> <li>2～4. 緑茶の入れ方（玄米茶 ほうじ茶 煎茶等）</li> <li>5～8. お抹茶 盆点前の稽古 風炉抹茶手前</li> <li>9. お抹茶 ミニ模擬お茶会</li> <li>10～11. お抹茶披露（学んできた盆点前を他の人に披露する）</li> <li>12～13. お茶会（書道、華道を選択した学生のお点前を補助し学びを深める）</li> <li>14～15. 高齢者施設との交流会（高齢者にお点前を披露する）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技テスト（50%）</li> <li>2. 出席状況・受講態度を加味する（50%）</li> </ol>		
テキスト	配布資料・プリント		
備考	懐紙 楊枝		

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護の基本 I</b> 講義・60 時間・4 単位	教員名	小淵 順子 田中 いづみ 他
概要 及び 目的	<p>本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。</p> <p>介護福祉の意義や役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションや ICF、介護の倫理などを通して理解する。</p> <p>体験学習を通して高齢者、障害者施設の機能及び、多様な生活の実態を理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉を取り巻く歴史や、関連法規を理解できる。</li> <li>・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職として生活を支援することの重要性を説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1～2. オリエンテーション</li> <li>3～4. 介護福祉を取り巻く状況</li> <li>5～6. 介護福祉の歴史</li> <li>7. 感染症総論（実習に向けて）</li> <li>8～11. 介護福祉士の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士を取り巻く状況</li> <li>・社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>・介護における専門職団体の活動</li> </ul> </li> <li>12～13. 介護を必要とする人の理解（高齢者施設・在宅）</li> <li>14. 実習振り返り（高齢者施設の機能と生活の理解）</li> <li>15. 中間まとめ・中間試験</li> <li>16. 私たちの生活の理解</li> <li>17. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし</li> <li>18. 生活のしづらさの理解とその支援</li> <li>19. ICF の考え方</li> <li>20. 介護を必要とする人の理解（障害者）</li> <li>21. 実習振り返り（障害者施設の機能と生活の理解）</li> <li>22. 感染症各論</li> <li>23. 自立支援と介護予防</li> <li>24～25. 介護福祉士の倫理</li> <li>26～27. 自立支援とリハビリテーション</li> <li>28～29. これからの時代に求められる介護実践</li> <li>30. まとめ・終講試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 95%（中間試験 50%，終講試験 45%）</li> <li>2. 出席状況 5%</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」 4 「介護の基本 II」		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護の基本Ⅱ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	小淵 順子 他
概要及び目的	<p>本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。</p> <p>地域包括ケアシステムの実現において身近な地域に目を向けた体験学習を通して生活者の視点から住み慣れた地域で生活することの意義と介護の役割を理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根差した介護実践を通し、住み慣れた地域で生活することの意義について説明できる。</li> <li>・グループ活動、体験学習に率先して取り組み、協働して学習を進めることが出来る。</li> <li>・見学、体験から得られたことや自分の考えを記述したり発表したりできる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ (地域包括ケアシステム、住み慣れた地域で生活することへの支援)</li> <li>2. 外出支援体験の意義・目的</li> <li>3-4. 外出支援体験準備</li> <li>5-6. 外出支援体験学習実施</li> <li>7-8. 外出支援体験学習まとめ・発表</li> <li>9-10. ふれあいセンター、地域包括支援センター見学</li> <li>11. 地域福祉活動の意義・目的</li> <li>12-13. 地域福祉活動準備</li> <li>14-15. 地域福祉活動実施、まとめ</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外出支援体験（グループ活動への貢献度等）40%</li> <li>2. ふれあいセンター、地域包括支援センター（レポート）20%</li> <li>3. 地域福祉活動（グループ活動への貢献度等）30%</li> <li>4. 出席状況 10%</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座</li> <li>2. 資料</li> <li>3 「介護の基本Ⅰ」</li> <li>4 「介護の基本Ⅱ」</li> </ol>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護の基本Ⅲ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	小淵 順子 齋藤 真智子 他
概要及び目的	<p>本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。</p> <p>ケアマネジメントの意味としくみ、介護過程との関係性を理解し、多職種連携の実践により利用者の生活を持続させる視点を養う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントの意味としくみ、介護過程との関係性について説明できる。</li> <li>・介護福祉サービスの種類とそれぞれのサービスについて、概要を説明できる。</li> <li>・保健、医療、福祉に関する各職種の専門性や役割について説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護サービスの意味と特性</li> <li>2. ケアマネジメントの意味としくみ</li> <li>3. 介護サービスの種類と提供の場</li> <li>4-5. 高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性</li> <li>6. 高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性</li> <li>7. 特定施設</li> <li>8. 地域密着型施設</li> <li>9-10. 障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性</li> <li>11. 障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性</li> <li>12-13. 協働する多職種連携の役割と機能</li> <li>14. 地域連携</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 90%</li> <li>2. 出席状況・提出物 10%</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座</p> <p>2 「社会の理解」</p> <p>4 「介護の基本Ⅱ」</p> <p>9 「介護過程」</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護の基本Ⅳ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	齋藤 真智子 常定 美香
概要 及 目的	<p>要介護者が増え続ける一方で、介護人材の不足がさげばれている今日、最先端技術を介護に活用する介護施設が増えている。</p> <p>本科目では、支援型介護ロボット（HAL）や、コミュニケーション型介護ロボット等実際に触れ、その体験を通して現状の把握と課題を考え、効果的な活用法について理解する。また、介護の多様性に対応していくため、ハンドマッサージの演習を通し、介護の幅を広げる。さらに、介護福祉のSDGsとは何なのか、実習での体験等をふまえて考えていく。</p>		
到達目標	<p>・様々な経験を通じて、これからの介護福祉士としてどのような知識や技術が必要なのか、考えることができる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（介護における最先端技術）</li> <li>2. 支援型介護ロボット HAL・マッスルスーツを使用してみよう（1）</li> <li>3. // （2）</li> <li>4. ハンド・フットマッサージ（1）</li> <li>5. // （2）</li> <li>6. 様々な場面でのコミュニケーション・マナー</li> <li>7. これからの介護に求められる介護実践（1）（心理学①）</li> <li>8. // （2）（心理学②）</li> <li>9. // （3）</li> <li>10. // （4）</li> <li>11. 福祉・介護の未来を考えよう（SDGs）（1）（グループワーク）</li> <li>12. // （2）</li> <li>13. // （3）</li> <li>14. // （4）（発表）</li> <li>15. まとめ・レポート</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提出物・レポート（60%）</li> <li>2. 発表内容（20%）</li> <li>3. 授業態度（10%）</li> <li>4. 出席状況（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>なし ※必要に応じて資料を配布する。</p>		
備考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護の基本 V</b> 講義・30 時間・2 単位	教員名	小渕 順子 田中 いづみ 石川 静葉 他
概要 及び 目的	<p>本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。</p> <p>介護における安全の確保とリスクマネジメント、感染対策、介護従事者の安全について知るとともに、具体的な対策について考えることができる。</p> <p>介護福祉士として、チームの一員として働くにあたり、2 年間の総まとめとして自己の介護観をまとめる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について説明できる。</li> <li>・演習にすすんで取り組み、自らの考えを述べることができる。</li> <li>・2 年間の学習を通し、自身の介護観について表現できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-4. 介護における安全の確保とリスクマネジメント（演習含む）</li> <li>5. 感染症対策</li> <li>6. 介護従事者の安全①健康管理の意義と目的</li> <li>7. 介護従事者の安全②こころの健康管理</li> <li>8. 介護従事者の安全③働く人の健康や生活を守る法制度</li> <li>9. 介護従事者の安全④身体の健康管理</li> <li>10. 介護従事者の安全⑤労働環境の整備</li> <li>11. 災害時における生活支援</li> <li>12. 介護観について</li> <li>13. 働くということ、自分を知ること</li> <li>14. 社会におけるコミュニケーション・マナー</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 50%</li> <li>2. 介護観レポート 30%</li> <li>3. 出席状況・提出点 20%</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座</p> <p>3 「介護の基本Ⅰ」</p> <p>4 「介護の基本Ⅱ」</p> <p>6 「生活支援技術Ⅰ」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>コミュニケーション技術Ⅰ</b> 講義・演習・30時間・2単位	教員名	小淵 順子 寺谷 和子
概要及び目的	<p>介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割などを理解し、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>さらに、文書作成の基本を学び、文書発信に関する知識と技術、目的に応じた適切な表現ができる力を養い、文章によるコミュニケーション力の向上を図る。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの基本技術、チームのコミュニケーション方法について理解し、説明できるようになる。</li> <li>・演習にすすんで取り組み、感じたことを表現できる。</li> <li>・文書によるコミュニケーションの基本を学び、自分で文書を作成できるようになる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文書作成の基本（受信者名と敬称、封筒の書き方）</li> <li>2. 文書作成（1）（文書の構成と配置・頭語と結語）</li> <li>3. 文書作成（2）（前文・主文・末文の書き方）</li> <li>4. 文書作成（3）（お礼状文書の表現方法）</li> <li>5. 文書作成まとめ（お礼状作成から投函まで）</li> <li>6. 介護におけるコミュニケーションの基本</li> <li>7. コミュニケーションの基本技術① 傾聴・受容・共感（演習含む）</li> <li>8. コミュニケーションの基本技術② 言語・非言語・準言語</li> <li>9. コミュニケーションの基本技術③ 目的別・集団</li> <li>10. コミュニケーションの基本技術④ 家族とのコミュニケーション</li> <li>11. 介護におけるチームのコミュニケーション① 報告・連絡・相談</li> <li>12. 介護におけるチームのコミュニケーション② 記録の意義・目的・種類</li> <li>13. 介護におけるチームのコミュニケーション③ 記録の実際</li> <li>14. 介護におけるチームのコミュニケーション④ 会議の種類と運用</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（授業内容1～5回目：30%、6～15回目：60%）</li> <li>2. 出席・提出点 10%</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」</li> <li>2. 資料</li> </ol>		
備考			

年次・学期	2 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>コミュニケーション技術Ⅱ</b> 講義・演習・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 柴田 富夫 佐藤 聡子
概要 及び 目的	介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術の習得をねらいとする。聴覚障害、視覚障害等、障害をもつ人を理解するとともに、要約筆記、点字の基本的なコミュニケーション手段を学習し、社会や現場で役立てることができるようになる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害を持つ人に対し、障害にあわせたコミュニケーションの特徴が理解できる</li> <li>・ 視覚障害を持つ人と点字を使ったコミュニケーションが図れる</li> <li>・ 要約筆記の知識を習得し、ノートテイクの実践ができる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【障害の特性に応じたコミュニケーション】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション障害への対応の基本</li> <li>2. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援</li> <li>3. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際① (視覚障害、聴覚障害、構音障害、失語症)</li> <li>4. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際② (認知症、うつ病・抑うつ状態、統合失調症)</li> <li>5.6. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③ (知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害)</li> <li>7. 点字の概要、点字の打ち方</li> <li>8. 点字(濁音、半濁音)</li> <li>9. 点訳問題集基礎編 課題レポート(点字用紙2 ページ分)</li> <li>10. 中途失聴・難聴のある人の現状と課題</li> <li>11. 要約筆記の基礎知識</li> <li>12. 日本語の基礎知識</li> <li>13. 話し言葉の基礎知識</li> <li>14.15. ノートテイク技術の習得、ノートテイクの技術試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内で要約筆記ノートテイク技術試験を実施する(30%)</li> <li>2. 授業内で点字課題レポート評価を行う(20%)</li> <li>3. 15 コマ終了後に筆記試験を実施する(50%)</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」  点字：「初めての点字」全国視覚障害者情報提供施設協会  要約筆記：テキストは使用せず、その都度、レジユメを準備し配布する。</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>生活支援技術A(家事支援)</b> 講・演 30時間・2単位	教員名	溝口 佳代 小淵 順子
概要及び目的	<p>生活支援・居住環境整備・被服生活・食生活の基本的知識の学習を行う。 生活支援の基本的な考え方をもとに、介護を必要とする人の生活の仕方を尊重し、適切な家事支援技術を身に付ける。安全に援助できる技術や知識について習得することをねらいとする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援，居住環境整備，福祉用具の基礎知識を習得できる。</li> <li>・被服生活，食生活の基礎知識を習得できる。</li> <li>・基礎知識を踏まえ、専門職として生活支援に必要な視点を説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【生活支援の理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援① 生活支援とは</li> <li>2. 生活支援② ライフサイクル・生活支援のポイント</li> <li>3. 生活支援③ 生活支援と介護過程・チームアプローチ</li> </ol> <p><b>【自立に向けた居住環境の整備】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 居住環境の整備① 住まい・生活空間</li> <li>5. 居住環境の整備② 快適・安全な生活環境</li> <li>6. 居住環境の整備③ 高齢者・障害者の住まい・多職種連携</li> </ol> <p><b>【福祉用具の意義と活用】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 福祉用具① 福祉用具とは・福祉用具の種類</li> <li>8. 福祉用具② 適切な福祉用具を選ぶための視点</li> </ol> <p><b>【自立に向けた家事の介護】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 高齢者の生活の特徴と課題・生活設計の考え方・家庭経済活動</li> <li>10. 被服生活の基礎知識</li> <li>11. 高齢者・障害者の被服生活</li> <li>12. 食生活の基礎知識① 食生活の変化・施策</li> <li>13. 食生活の基礎知識② 五大栄養素・献立の立て方</li> <li>14. 食生活の基礎知識③ 食品衛生・調理の基本</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	試験（授業内容 1～8回目：60%，9～15回目：40%）		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術I」		
備考			

年次・学期	1 年次・ 後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>生活支援技術 B(家事支援)</b> 講・演 60 時間・4 単位	教員名	溝口 佳代
概要 及び 目的	<p>介護を必要とする人がどのような状態であっても、その人らしい生活の仕方を尊重し、見守ることも含めた適切な家事支援の技法を身に付けるとともに、安全に援助できる技術や知識を習得することをねらいとする。</p> <p>一人ひとりの家事支援技術力の向上も目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣・食・住にかかわる基本的な知識と技法を理解している</li> <li>・利用者一人一人の生活を尊重した支援を考えることができる</li> </ul>		
授業内容	<p>(自立に向けた家事の介護)</p> <p>1・2 高齢者の栄養と食事・疾病別食事 家事支援の意義と目的</p> <p>3・4 家事介助の技法 家計管理 1 実習室準備・調理の基本</p> <p>5・6 家事の介助の技法 調理 1</p> <p>7・8 家事の介助の技法 調理 2・家計管理 2</p> <p>9・10 家事の介助の技法 調理 3</p> <p>11・12 家事の介助の技法 調理 4</p> <p>13・14 家事の介助の技法 調理 5</p> <p>15・16 家事の介助の技法 調理 6</p> <p>17・18 家事の介助の技法 調理 7</p> <p>19・20 家事の介助の技法 洗濯・管理</p> <p>21・22 家事の介助の技法 裁縫 1</p> <p>23・24 家事の介助の技法 裁縫 2 清掃・片付け</p> <p>25・26 家事の介護の技法 調理 8</p> <p>27 家事の介護の技法 室内環境</p> <p>28・29 課題調理</p> <p>30 まとめとテスト</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点・演習態度 10%</li> <li>2. 筆記試験 80%</li> <li>3. 提出物点 10%</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術 I」 必要に応じて資料配布あり</p>		
備考	<p>その他：調理では指示の通りの服装等を準備すること</p>		

年次・学期	1年次・ 通年	担当科	介護福祉学科				
科目名	<b>生活支援技術C(基本介護技術)</b> 講・演 120時間・8単位	教員名	中西 貴子 他				
概要及び目的	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>介護の原則である「自立(自律)支援」「尊厳の保持」「安全・安心」を土台とし、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>ICFの概念に基づくアセスメントを行い、さまざまな対象者に適切な生活支援が展開できることを目指す。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な方法を理解する。</li> <li>・ 様々な生活場面において自立支援の観点から、根拠に基づいた技術を実践し説明することができる。</li> <li>・ 丁寧な声かけを通して、一人の人として尊重した関わりができる。</li> <li>・ 主体的かつ積極的に授業に参加し、演習時は周囲と協力した行動ができる。</li> <li>・ 所定の時間内に基本的技術の実践をすることができる。</li> </ul>						
授業内容	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1～2. オリエンテーション、基本となる技術とは</p> <p>3. ICFの視点とアセスメント</p> <p>4～15. 自立に向けた「移動の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した移動とは</li> <li>・ 状態に応じた移動、移乗の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 体位変換、安楽な姿勢・体位、車いす介助、歩行の介助等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>16～22. 自立に向けた「身じたくの介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した身じたくとは</li> <li>・ 状態に応じた身じたくの介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 整容、口腔ケア、衣類の着脱等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>23～26. 自立に向けた「食事の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の意義と目的</li> <li>・ 状態に応じた食事の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>27～35. 自立に向けた「入浴・清潔保持の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した入浴・清潔保持とは</li> <li>・ 状態に応じた入浴・清潔保持の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 入浴、部分浴、清拭、洗髪等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p>36～46. 自立に向けた「排泄の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した排泄とは</li> <li>・ 状態に応じた排泄の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> トイレ、ポータブルトイレ、尿器便器、おむつ、おむつ体験等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>47～57. 「休息・睡眠の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休息、睡眠とは</li> <li>・ 状態に応じた休息、睡眠の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> ベッドメイキング、翳法等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>58～60. 「人生の最終段階における介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意義と介護の役割</li> <li>・ 人生の最終段階の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> </td> </tr> </table>			<p>1～2. オリエンテーション、基本となる技術とは</p> <p>3. ICFの視点とアセスメント</p> <p>4～15. 自立に向けた「移動の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した移動とは</li> <li>・ 状態に応じた移動、移乗の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 体位変換、安楽な姿勢・体位、車いす介助、歩行の介助等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>16～22. 自立に向けた「身じたくの介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した身じたくとは</li> <li>・ 状態に応じた身じたくの介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 整容、口腔ケア、衣類の着脱等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>23～26. 自立に向けた「食事の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の意義と目的</li> <li>・ 状態に応じた食事の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>27～35. 自立に向けた「入浴・清潔保持の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した入浴・清潔保持とは</li> <li>・ 状態に応じた入浴・清潔保持の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 入浴、部分浴、清拭、洗髪等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul>	<p>36～46. 自立に向けた「排泄の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した排泄とは</li> <li>・ 状態に応じた排泄の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> トイレ、ポータブルトイレ、尿器便器、おむつ、おむつ体験等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>47～57. 「休息・睡眠の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休息、睡眠とは</li> <li>・ 状態に応じた休息、睡眠の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> ベッドメイキング、翳法等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>58～60. 「人生の最終段階における介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意義と介護の役割</li> <li>・ 人生の最終段階の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul>		
<p>1～2. オリエンテーション、基本となる技術とは</p> <p>3. ICFの視点とアセスメント</p> <p>4～15. 自立に向けた「移動の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した移動とは</li> <li>・ 状態に応じた移動、移乗の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 体位変換、安楽な姿勢・体位、車いす介助、歩行の介助等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>16～22. 自立に向けた「身じたくの介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した身じたくとは</li> <li>・ 状態に応じた身じたくの介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 整容、口腔ケア、衣類の着脱等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>23～26. 自立に向けた「食事の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の意義と目的</li> <li>・ 状態に応じた食事の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>27～35. 自立に向けた「入浴・清潔保持の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した入浴・清潔保持とは</li> <li>・ 状態に応じた入浴・清潔保持の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> 入浴、部分浴、清拭、洗髪等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul>	<p>36～46. 自立に向けた「排泄の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立した排泄とは</li> <li>・ 状態に応じた排泄の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> トイレ、ポータブルトイレ、尿器便器、おむつ、おむつ体験等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>47～57. 「休息・睡眠の介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休息、睡眠とは</li> <li>・ 状態に応じた休息、睡眠の介護  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</span> ベッドメイキング、翳法等</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul> <p>58～60. 「人生の最終段階における介護」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意義と介護の役割</li> <li>・ 人生の最終段階の介護</li> <li>・ 多職種との連携</li> </ul>						
評価方法	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 出席点(授業・演習態度) 10%</td> <td style="width: 50%;">3. 実技試験 50%</td> </tr> <tr> <td>2. 筆記試験 40%</td> <td></td> </tr> </table>			1. 出席点(授業・演習態度) 10%	3. 実技試験 50%	2. 筆記試験 40%	
1. 出席点(授業・演習態度) 10%	3. 実技試験 50%						
2. 筆記試験 40%							
テキスト	<p>1. 中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」</p> <p>2. 中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」</p> <p>3. 配布資料</p>						
備考	<p>授業形態は、講義と演習ですすめていきます。(※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる) 演習時は、実習服・実習靴が必要です。(整わない場合は授業を受けることができません)</p>						

年次・学期	2 年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>生活支援技術 D (基本介護技術)</b> 講・演 60 時間・4 単位	教員名	中西 貴子 他
概要 及び 目的	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>生活の継続性を支援する観点から、生活支援技術 C (基本介護技術) の知識・技術を土台に、対象者の個々の状況に応じた支援が実践できるための個別援助技術を習得する。</p> <p>また、社会生活の維持拡大に向け、ご利用者の楽しみ、役割、生きがいにつながる視点を養い、状況に応じた生活支援技術が実践できることを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を支援するためには様々な視点・アプローチがあることを学ぶ</li> <li>・多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育み、実践につなげることができる。</li> <li>・様々な生活場面において特徴に応じたアセスメントを行い、根拠に基づいた個別ケアの実践ができる。</li> <li>・主体的かつ積極的に授業に参加し、演習時は周囲と協力した行動ができる。</li> <li>・所定の時間内に基本的技術の実践をすることができる。</li> </ul>		
授業内容	1-2. アセスメントに基づいた個別援助技術 3-4. アセスメントに基づいた個別援助技術 5-6. アセスメントに基づいた個別援助技術 7-8. アセスメントに基づいた個別援助技術 9-12. 介護実習で実践した実技の振り返り 13-14. アセスメントに基づいた個別援助技術 15-16. アセスメントに基づいた個別援助技術 17-18. アセスメントに基づいた個別援助技術 19-20. 介護実習で実践した実技の振り返り 21-22. 社会生活の維持拡大に向けた援助 ① (化粧療法) 23-26. 社会生活の維持拡大に向けた援助 ② (ボッチャ) 27-30. 実技のまとめ	介護過程の実践的展開 ① 介護過程の実践的展開 ② 介護過程の実践的展開 ③ 介護過程の実践的展開 ④ 介護過程の実践的展開 ⑤ 介護過程の実践的展開 ⑥ 介護過程の実践的展開 ⑦	
評価方法	1. 出席点 (授業・演習態度) 20% 2. 実技試験 80%		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」		
備考	授業形態は、講義と演習ですすすめていきます。(※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる) 演習時は、実習服・実習靴が必要です。(整わない場合は授業を受けることができません)		

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>生活支援技術E(症状別介護技術)</b> 講・演 30時間・2単位	教員名	田中 いづみ 他
概要及び目的	<p>「こころとからだのしくみ」「障害の理解」で学んだ知識を応用して、利用者の状態・状況に応じた適切な生活支援技術を習得する。</p> <p>利用者がどのような状態であっても、自立支援に向けての生活支援技術が提供できる統合的能力を養う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害や疾病のある人について、医学的、心理的側面から理解できる</li> <li>・ 障害を持つ人の生活上の困りごとを学習する</li> <li>・ 障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは</li> <li>2. 肢体不自由に応じた介護</li> <li>3. 視覚障害に応じた介護</li> <li>4. 聴覚・言語障害に応じた介護</li> <li>5. 知的障害・重症心身障害に応じた介護</li> <li>6. 発達障害に応じた介護</li> <li>7. 精神障害に応じた介護</li> <li>8. 高次脳機能障害に応じた介護</li> <li>9. 内部障害に応じた介護 ①心臓・呼吸器機能障害に応じた介護</li> <li>10. 内部障害に応じた介護 ②腎臓機能障害に応じた介護</li> <li>11. 内部障害に応じた介護 ③膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護</li> <li>12. 内部障害に応じた介護 ④肝臓・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に応じた介護</li> <li>13. 難病に応じた介護 ①筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に応じた介護</li> <li>14. 難病に応じた介護 ②悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーに応じた介護</li> <li>15. 試験・まとめ</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（80％）</li> <li>2. 演習評価（20％）</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」		
備考			

年次・学期	1 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護過程総論</b> 講義・30 時間・ 2 単位	教員名	小淵 順子 上田 千恵
概要 及び 目的	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>ICF の概念を取り入れた専門的知識・技術をもって行われる、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を習得する。</p> <p>介護過程を学び、自立支援に沿ったサービスを統合的・計画的に提供できる思考過程を身につける。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践における介護過程の意義を理解できる。</li> <li>・介護過程の一連のプロセスと各段階の意味を説明できる。</li> <li>・パソコン演習に取り組み、介護実践における資料などを自身で作成できる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【介護過程の意義と基礎的理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程とは</li> <li>2. 介護過程の意義・目的</li> <li>3～5. 介護過程の基本視点 介護過程の全体像の理解</li> <li>6. 介護過程の展開① アセスメント</li> <li>7. 介護過程の展開② 介護計画の立案</li> <li>8. 介護過程の展開③ 介護の実施</li> <li>9. 介護過程の展開④ 評価</li> <li>10～14. 介護におけるプレゼンテーションの必要性（コンピューター入門）</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験 60%</li> <li>2. 出席状況・提出物（授業内容 1～9 回目）10%</li> <li>3. 出席状況・提出物（授業内容 10～14 回目）30%</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」 コンピューター：「30 時間アカデミック office2019」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護過程展開Ⅰ</b> 講義・演習・30時間・2単位	教員名	小淵 順子 中西 貴子
概要 及び 目的	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>介護過程におけるアセスメントの必要性を理解し、「必要な支援とその理由」を明確にする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程におけるアセスメントの重要性について説明できる。</li> <li>・テキスト事例を基に各アセスメント様式に記入し、アセスメントの流れを理解できる。</li> <li>・各演習に率先して取り組み、気付きを得ることが出来る。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【介護過程の展開の理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程の実践的展開 事例で学ぶ介護過程の展開について</li> <li>2. アセスメントとは</li> <li>3-4. 情報の収集</li> <li>5-6. 情報の解釈・関連づけ・統合化</li> <li>7-8. 課題の明確化</li> <li>9. ケアマネジメントと介護過程の関係性</li> <li>10-12. アセスメントの実施 演習</li> <li>13-14. アセスメントの視点（観察）</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 80%</li> <li>2. 出席状況, 提出点 20%</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備考			

年次・学期	2 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護過程展開Ⅱ</b> 演習・30 時間・1 単位	教員名	小淵 順子 中西 貴子
概要 及び 目的	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>事例学習を繰り返し行い、利用者のさまざまな状況に応じた介護過程の展開方法を身につける。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト事例を基に各アセスメント様式に自分で記入できる。</li> <li>・介護実習Ⅱを想定した事例学習に取り組み、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開が実践できる。</li> <li>・チームアプローチやカンファレンスの意義を理解し、専門職として他職種とどのように連携するか考えることができる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【介護過程の展開の理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメントのまとめ</li> <li>2. 介護実習Ⅱ－Ⅰに向けての介護過程の展開</li> <li>3-7. 事例学習によるアセスメントの実践</li> <li>8. 介護実習Ⅱ－Ⅰ担当利用者のアセスメント振り返り</li> <li>9-10. 介護計画の立案（演習含む）</li> </ol> <p><b>【介護過程とチームアプローチ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11-13. 介護過程とケアマネジメント、カンファレンスの意義（演習含む）</li> <li>14. 介護実習Ⅱ－Ⅱに向けての介護過程の展開</li> <li>15. まとめ・試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験 90%</li> <li>2. 出席状況、提出点 10%</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備考			

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護過程展開Ⅲ(事例研究)</b> 講義・60時間・2単位	教員名	介護福祉学科教員
概要及び目的	<p>介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>介護実習Ⅱ-2で担当した利用者を通して事例研究を行い、介護過程の展開を総合的に学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習Ⅱ-2で担当した利用者との関わりを客観的に見つけ、自分の言葉で表現することが出来る。</li> <li>・自身の学びを通し、介護のあり方や今後の課題など物事を多角的に捉え、自分の言葉で表現することが出来る。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【介護過程の展開の理解】</b></p> <p>1. 介護計画の立案（演習含む）</p> <p>2-4. 介護の実施・評価（演習含む）</p> <p><b>【介護過程とチームアプローチ】</b></p> <p>5. 介護過程とケアマネジメント① 介護過程とケアマネジメントの関係性</p> <p>6. 介護過程とケアマネジメント② チームアプローチにおける介護福祉士の役割</p> <p>7-8. 実習の振り返り</p> <p><b>【介護過程の展開の理解】</b></p> <p>9. 事例研究の意義と目的、進め方</p> <p>10-20. 事例研究作成、個人指導</p> <p>21-23. 事例研究発表会（クラス発表）</p> <p>24-27. 事例研究発表会</p> <p>28-29. 施設のケアプランと介護過程</p> <p>30. まとめ</p>		
評価方法	<p>1. 事例研究の総合評価 80%（取り組む姿勢，文章表現，考察力，発表）</p> <p>2. 出席状況，提出点 20%</p>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備考			

年次・学期	1年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護総合演習Ⅰ</b> 演習・ 60時間・ 2単位	教員名	介護福祉学科教員
概要及び目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年次の介護実習に向けて、実習の心がまえ・予備知識・動機づけ等の準備を行い、実習の展開方法について理解する。</li> <li>・書類作成等実習に向けた一連の準備を行う。</li> <li>・実習後の振り返りを通して、様々な暮らしと利用者ニーズを理解する。</li> </ul>		
到達目標	<p>①実習前の準備や実習後の振り返りを主体的に行い、専門職としての姿勢を養うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習の必要性と、その意義を理解することができる。</li> <li>・挨拶、礼儀、マナーを身につけることができる。</li> <li>・自分で目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを計画・実践し、課題を見つけることができる。</li> <li>・見る、聞く、話す、書く、察する、まとめる力を身につけることができる。</li> </ul> <p>②主体的に授業に参加し、提出物等の期限を守ることができる。</p>		
授業内容	<p>1. オリエンテーション（実習Ⅰ・2について）</p> <p>2-12. 実習Ⅰ-1（高齢者施設）の意義・目的 〈実習Ⅰ-1の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習日誌の書き方 事前訪問指導 実習に必要な技術指導 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価</p> <p>11-20. 実習Ⅰ-2・3（通所・訪問）の意義・目的 〈実習Ⅰ-2・3の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 通所・訪問事業所より特別授業 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価</p> <p>21-22. 外出支援体験学習</p> <p>23-30. 実習Ⅰ-4（障害者施設）の意義・目的 〈実習Ⅰ-4の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 障害者施設より特別授業 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価</p>		
評価方法	<p>実習Ⅰ-1の準備・振り返り関連 30%      実習Ⅰ-2, Ⅰ-3の準備・振り返り関連 40%</p> <p>実習Ⅰ-4の準備・振り返り関連 30%</p>		
テキスト	<p>1. 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」</p> <p>2. 実習のしおり</p> <p>3. 実習ファイル（関係書類配布）</p>		
備考	<p>授業に出席して必要な準備を行い、指定された期限内にレポート提出することを前提とする。</p>		

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護総合演習Ⅱ</b> 演習・ 60時間・ 2単位	教員名	介護福祉学科教員
概要及び目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二年次の介護実習に向けて、実習の心がまえ・予備知識・動機づけ等の準備を行い、介護実習Ⅱの意義・目的について理解する。</li> <li>・書類作成等実習に向けた一連の準備を行う。</li> <li>・実習後の振り返りを通して、介護過程における利用者の生活とニーズを理解する。</li> </ul>		
到達目標	<p>①実習前の準備や実習後の振り返りを主体的に行い、専門職としての姿勢を養うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習の必要性と、その意義を理解することができる。</li> <li>・挨拶、礼儀、マナーを身につけることができる。</li> <li>・自分で目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを計画・実践し、課題を見つけ、それを改善するための行動をすることができる。</li> <li>・見る、聞く、話す、書く、察する、まとめる力を身につけることができる。</li> </ul> <p>②主体的に授業に参加し、提出物等の期限を守ることができる。</p>		
授業内容	<p>1. オリエンテーション（実習Ⅱについて）</p> <p>2-12. 実習Ⅱ-1（高齢者施設・障害者施設）の意義・目的  く実習Ⅱ-1の準備く  実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問  実習に必要な技術  実習直前オリエンテーション  ※ 必要に応じて他教科の指導</p> <p>13-14. 実習の振り返り、発表、実習評価</p> <p>16. 実習Ⅱ-2（高齢者施設・障害者施設）の意義・目的</p> <p>16-19. 音楽療法</p> <p>10-28. く実習Ⅱ-2の準備く  実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問  実習に必要な技術 実習直前オリエンテーション  実習の振り返り、発表、実習評価</p> <p>29-30. 事例研究に向けて（介護実践の科学的探求）</p>		
評価方法	<p>実習Ⅱ-1の準備・振り返り関連 50%</p> <p>実習Ⅱ-2の準備・振り返り関連 50%</p>		
テキスト	<p>1. 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」</p> <p>2. 実習のしおり</p> <p>3. 実習ファイル（関係書類配布）</p>		
備考	<p>授業に出席して必要な準備を行い、指定された期限内にレポート提出することを前提とする。</p>		

年次・学期	Ⅰ年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護実習Ⅰ</b> 実習・トータル150時間・3単位	教員名	介護福祉学科教員
概要 及び 目的	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践、多職種連携の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。		
到達目標	① コミュニケーションを中心に利用者に関わり、利用者の生活の場を理解できる。 ② 利用者のニーズに対する介護サービス、介護職員の役割について理解できる。 ③ 主体的に日常生活援助の実際を見学・参加し、 個々に応じた介護技術の実際について学ぶことができる。 ④ 実習期間および時間内、実習施設の方針に沿った介護実習ができる。 ⑤ 提出物等の期限を守ることができる。 ⑥ 報告・連絡・相談を適宜することができる。 ⑦ 実習指導を真摯に受け、理解することができる。		
授業内容	高齢者（Ⅰ－Ⅰ） ：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護 有料老人ホーム、グループホーム 障害者（Ⅰ－Ⅳ） ：障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、医療型障害児入所施設		
	1. 施設サービスについて学ぶ 2. 利用者とのコミュニケーションについて学ぶ		
	通所介護（Ⅰ－Ⅱ） ：通所介護、通所リハビリテーション、小規模多機能型居宅介護		
	1. 通所系サービスについて学ぶ 2. 利用者とのコミュニケーションについて学ぶ		
評価方法	実習評価表による評価		
	1. 実習のしおり 2. 実習ファイル（関係書類配布） 3. 各教科の教科書		
備考	※ 詳細については『実習のしおり』参照 ※ 実習期間中、週に1回の巡回指導を担当教員が行う。		

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>介護実習Ⅱ</b> 実習・トータル300時間・6単位	教員名	介護福祉学科教員
概要及び目的	実習Ⅰの体験を踏まえながら、一つの施設・事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。また自己の介護観を見出す。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実習Ⅱ－1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開（アセスメント）を軸に専門的知識や技術を統合し、総合的な援助ができる能力を養う</li> </ul> </li> <li>●実習Ⅱ－2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開（アセスメント、計画の立案、実施、評価）を軸に専門的知識や技術を統合し、総合的な援助ができる能力を養う</li> </ul> </li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>●共通事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 主体的に日常生活援助の実際を見学・参加し、個々に応じた介護技術の実際について理解し実践することができる。</li> <li>② 実習期間および時間内、実習施設の方針に沿った介護実習ができる。</li> <li>③ 提出物等の期限を守ることができる。</li> <li>④ 報告・連絡・相談を適宜することができる。</li> <li>⑤ 実習指導を真摯に受け、行動に移すことができる。</li> </ol> </li> </ul>		
授業内容	<p>介護実習Ⅱ－1 ：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の生活支援に必要なアセスメントができる</li> <li>2. 根拠に基づいた個別ケアの実践ができる</li> </ol> <p>介護実習Ⅱ－2 ：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の思いに沿った一連の介護過程の展開できる</li> <li>2. 根拠に基づいた個別ケアの実践ができる</li> </ol>		
評価方法	実習評価表による評価		
テキスト	1. 実習のしおり 2. 実習ファイル（関係書類配布） 3. 各教科の教科書		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 詳細については『実習のしおり』参照</li> <li>※ 実習期間中、週に1回の巡回指導を担当教員が行う。</li> </ul>		

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>【I】こころのしくみ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	鈴木 晶子
概要及び目的	<p>介護実践に必要となる心の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、生理的、心理的、社会的側面を総合的に捉えるための知識を身につける。</p> <p>また、各発達段階で生じる心理的特徴や精神疾患について正しく理解し、適切な対応ができることを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の欲求や記憶や学習の仕組みについて理解できる。</li> <li>・発達理論と各発達段階の特徴について理解できる。</li> <li>・精神疾患についての基本的知識と対応について理解できる。</li> <li>・児童・高齢者虐待の実態を学び、課題や予防策について考えることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欲求と動機づけ</li> <li>2. 認知と知覚</li> <li>3. 学習と記憶</li> <li>4. 発達理論（エリクソン・ピアジェ）</li> <li>5. 乳幼児期の発達</li> <li>6. 発達障害</li> <li>7. 児童虐待</li> <li>8. 中間テスト</li> <li>9. 児童期・青年期の発達</li> <li>10. 精神疾患（統合失調症、うつ病・双極性障害）</li> <li>11. 精神疾患（不安症他）</li> <li>12. 成人期の発達、アディクション・共依存</li> <li>13. 老年期の発達</li> <li>14. 対象喪失・悲嘆、高齢者虐待</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（中間100点・終講100点の平均）90%</li> <li>2. レポート10%</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座</p> <p>11 「こころとからだのしくみ」 12 「発達と老化の理解」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>【I】からだのしくみ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	時岡 眞美子 西尾 恵
概要及び目的	<p>介護に活かすためのからだのしくみを理解する。 人間のからだの仕組みに関する基本的理解と高齢者の疾病を理解する。 生活支援のために必要とされる基本的な人体の構造や機能、疾病について学び、根拠を持って援助ができる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体各部、各器官の名称と働きが説明できる。</li> <li>・こころとからだの関係について理解できる。</li> <li>・疾病や加齢等による身体機能の変化が説明でき、生活に及ぼす影響が理解できる。</li> <li>・実践する介護や生活支援技術の根拠が説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【からだのしくみの理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康とは、からだのつくりの理解</li> <li>2. 細胞・組織・器官・器官系</li> <li>3. 脳と神経系の構造と機能</li> <li>4. 骨格系・筋系の構造と機能</li> <li>5. 皮膚・感覚器系の構造と機能</li> <li>6. 血液・循環器系の構造と機能</li> <li>7. 呼吸器系の構造と機能</li> <li>8. 消化器系の構造と機能</li> <li>9. 腎・泌尿器系の構造と機能</li> <li>10. 生殖器・内分泌・代謝系の構造と機能</li> <li>11. 免疫系の構造と機能</li> <li>12. 心身の調和を保つしくみ（自律神経系、免疫系）</li> <li>13. 生命を維持するしくみ（バイタルサイン）</li> <li>14. 介護福祉士に必要な薬の知識</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（60%）</li> <li>2. 小テスト（20%）</li> <li>3. グループワークの成果・貢献度（20%）</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 II 「こころとからだのしくみ」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみA</b> 講義・30時間・2単位	教員名	田中 いづみ
概要及び目的	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる「こころとからだのしくみ」及び「心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響」に関する知識を学習し、科学的で実践的な介護を提供するための学びとする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動、身じたく、食事等の生活場面ごとに「こころとからだのしくみ」「心身機能の低下や障害が生活に及ぼす影響」が理解できる</li> <li>・移動、身じたく、食事等の生活場面ごとに観察ポイント、医療職との連携ポイントの理解ができる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【移動に関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <p>1～2. 姿勢、体位保持、座位保持、歩行、重心移動 他</p> <p>3～4. 機能の低下・障害が移動に及ぼす影響 麻痺や骨粗鬆症など機能低下の原因、廃用症候群や骨折と移動への影響</p> <p>5. 移動に関連するこころとからだの変化の気づきと連携</p> <p><b>【身じたくに関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <p>6～7. 身じたくの意味、顔・口腔・毛髪の清潔、更衣 他</p> <p>8. 機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響 機能の低下・障害の原因、影響、口腔の清潔 他</p> <p>9. 身じたくに関連するこころとからだの変化の気づきと連携</p> <p><b>【食事に関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <p>10～11. 栄養素、食欲・食べる仕組み、咀嚼と嚥下、消化と吸収 他</p> <p>12～13. 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響 機能低下の原因、影響</p> <p>14. 食事に関連するこころとからだの変化の気づきと連携</p> <p>15. まとめ、試験</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験（90%）</p> <p>2. 授業態度・出席点（10%）</p>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 Ⅱ 「こころとからだのしくみ」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみB</b> 講義・30時間・2単位	教員名	田中 いづみ
概要及び目的	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる「こころとからだのしくみ」及び「心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響」に関する知識を学習し、科学的で実践的な介護を提供するための学びとする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴、排泄、睡眠、人生の最終段階のケア等の生活場面ごとに「こころとからだのしくみ」「心身機能の低下や障害が生活に及ぼす影響」が理解できる</li> <li>・入浴、排泄、睡眠、人生の最終段階のケア等の生活場面ごとに観察ポイント、医療職との連携ポイントの理解ができる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚・頭皮の汚れ、発汗のしくみ、入浴の作用 他</li> <li>2. 機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響 機能低下、影響 他</li> <li>3. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの変化の気づきと連携</li> </ol> <p><b>【排泄に関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 尿の生成と排尿、便の生成と排便、排泄の心理と尊厳</li> <li>5～6. 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響 排尿の機能低下の影響（尿失禁など）、排便の機能低下の影響（便失禁など）</li> <li>7. 排泄に関連したこころとからだの変化の気づきと連携</li> </ol> <p><b>【休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. サーカディアンリズム、レム睡眠とノンレム睡眠 他</li> <li>9～10. 機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響 睡眠障害など障害原因、生活への影響</li> <li>11. 休息・睡眠に関連したこころとからだの変化の気づきと連携</li> </ol> <p><b>【人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12. 「死」とは、尊厳死や安楽死、リビングウィル、意思決定支援 他</li> <li>13. 「死」に対するこころの理解</li> <li>14. 終末期から危篤状態、死後の体の理解、終末期における連携</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（90%）</li> <li>2. 授業態度・出席点（10%）</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 Ⅱ 「こころとからだのしくみ」		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>発達と老化の理解 I</b> 講義・30時間・2単位	教員名	大本 明美
概要及び目的	生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化をもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。		
到達目標	<p>*人間の成長と発達の観点から人の一生についての基礎知識を理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因等の基礎的知識を説明できる。</li> <li>・ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について説明できる。</li> </ul> <p>*成長・発達の観点から老化を理解し、老化に伴う心理や身体機能の変化、その特徴に関する基礎知識を習得できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の特徴と発達課題について、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と生活への影響の状況を説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【人間の成長と発達の基礎的理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成長・発達の考え方、原則・法則</li> <li>2. 成長・発達に影響する要因</li> </ol> <p><b>【人間の発達段階と発達課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 発達理論</li> <li>4. 発達段階と発達課題</li> <li>5. 身体的機能の成長と発達</li> <li>6. 心理的機能の発達</li> <li>7. 社会的機能の発達</li> </ol> <p><b>【老年期の特徴と発達課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 老年期の定義、老化とは</li> <li>9. 老年期の発達課題</li> </ol> <p><b>【老化に伴うこころとからだの変化と生活】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10～12. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響</li> <li>13～14. 老化にともなう心理的・社会的変化と生活への影響</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100点）		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>発達と老化の理解Ⅱ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	大本 明美
概要及び目的	<p>生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の高齢化の現状と健康長寿への考え方の背景を説明できる。</li> <li>・加齢による老化の症状と高齢者に多くみられる疾患の特徴について説明できる。</li> <li>・さまざまな症状が日常生活に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>・高齢者の健康維持や増進を含めた生活支援をするための方法や役割を説明できる。(多職種連携の重要性もあわせて理解できる。)</li> </ul> <p>→以上の学びでの知識の習得により、人生の各々の段階、特に老年期の人々を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践に結びつけられるよう、常に意識をしながら理解を深めていくことができる。</p>		
授業内容	<p><b>【高齢者と健康】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康</li> <li>2. 健康長寿に向けて</li> </ol> <p><b>【高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 高齢者の疾患の特徴、老年症候群</li> <li>4. 骨格、筋系</li> <li>5. 脳、神経系</li> <li>6. 皮膚、感覚器系</li> <li>7. 循環器系</li> <li>8. 呼吸器系、消化器系</li> <li>9. 腎、泌尿器系</li> <li>10. 内分泌系他</li> <li>11. 歯、口腔疾患</li> <li>12. 悪性新生物、感染症</li> <li>13. 精神疾患、その他</li> </ol> <p><b>【保健医療職との連携】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 連携の必要性、他</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験(100点)		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・ 後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>認知症の理解 I</b> 講義・ 30 時間・ 2 単位	教員名	西尾 恵 他
概要 及び 目的	<p>認知症に関する基礎的理解を習得し、その特性を理解する。          認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援の在り方を学ぶ。          認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族の支援ができる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアの歴史や認知症に関する国の方針と施策を理解できる</li> <li>・ 認知症の定義、診断基準、主な認知症の原因と症状が説明できる。</li> <li>・ 認知症の中核症状、B P S D等の症状を理解し、認知症の人の心理が説明できる。</li> <li>・ 認知機能のスクリーニングテスト、検査、治療を説明できる。</li> <li>・ 認知症の治療と予防方法が説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【認知症をとり巻く状況】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアの歴史（わが国の歴史的背景）</li> <li>2. 認知症ケアの理念、倫理、権利擁護</li> <li>3. 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策 他</li> </ol> <p><b>【認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 認知症とは何か 定義、診断基準、認知症の特徴</li> <li>5～6. 認知症のさまざまな症状 中核症状とB P S D</li> <li>7. 認知症の検査、診断</li> <li>8. 認知症と鑑別すべき症状、疾患</li> <li>9～10. 認知症の原因疾患と症状 アルツハイマー型、血管性 他</li> <li>11. 若年性認知症</li> <li>12. 認知症治療</li> <li>13. 認知症の予防 認知症の危険因子、予防、軽度認知障害 他</li> <li>14. 認知症の人の心理</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（60%）</li> <li>2. 授業態度（10%）</li> <li>3. 小テスト（30%）</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>認知症の理解Ⅱ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	西尾 恵 石川 静葉 他
概要及び目的	<p>認知症本人、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。          認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援の在り方を学ぶ。          認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族への支援ができる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの歴史や認知症に関する国の方針と施策を理解できる。</li> <li>・認知症の人の心身機能が生活に及ぼす影響を理解し、実施される様々なケアの内容とその根拠が説明できる。</li> <li>・認知症の人の生活を支えるという観点から、地域でのサポート体制、多職種連携の基礎的内容が理解できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア コミュニケーション、社会とのかかわり</li> <li>2～5. 認知症ケアの実際 意思決定支援、パーソンセンタードケア、コミュニケーション 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール、センター方式 認知症の人への生活支援、環境への配慮、人生の最終段階のケア</li> <li>6～7. 認知症の人へのさまざまなかかわり RO、回想法、音楽療法、バリデーション 他</li> <li>8～9. 地域におけるサポート体制 地域包括支援センター、地域連携、ボランティア、認知症疾患医療センター 認知症地域支援推進員、認知症カフェ 他</li> <li>10～11. 連携と協働 地域包括ケアシステム、認知症ケアパス 他</li> <li>12. 家族介護者への支援 認知症の人の家族を支える視点とレスパイトケア</li> <li>13. 介護福祉職への支援 働きやすい職場環境の整備、ケアモデルを実践するための環境整備</li> <li>14. 認知症の人の地域生活支援 オレンジプランから新オレンジプランへ、多職種連携と協働 他</li> <li>15. 認知症疑似体験（VR）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 15コマの授業実施後、筆記試験（60%）</li> <li>2. 授業態度（10%）</li> <li>3. 小テスト（30%）</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版          最新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>障害の理解 I</b> 講義・30時間・2単位	教員名	田中 いつみ 齋藤 真智子 他
概要 及び 目的	障害のある人の身体機能や心理機能を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習をする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害についての基本的知識・理念・制度について説明できる</li> <li>・障害種別ごとの身体的、心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援が理解できる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【障害の基礎的理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害の概念 定義、ICIDH から ICF へ</li> <li>2. 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーション、インクルージョン、エンパワメント 他</li> <li>3. 障害者福祉の現状と施策 就労支援、意思決定支援、成年後見人制度、障害者総合支援法 他</li> </ol> <p><b>【障害の医学的・心理的側面の基礎的理解】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 障害のある人の心理</li> <li>5～7. 肢体不自由（運動機能障害）</li> <li>8. 視覚障害</li> <li>9. 聴覚障害</li> <li>10. 言語障害</li> <li>11. 重複障害</li> <li>12. 知的障害</li> <li>13. 重症心身障害</li> <li>14. 高次脳機能障害</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（80%）</li> <li>2. 小テスト（20%）</li> </ol>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」		
備考			

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>障害の理解Ⅱ</b> 講義・30時間・2単位	教員名	田中 いづみ 他
概要及び目的	障害のある人の身体機能や心理機能を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習をする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害種別ごとの身体的、心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援が理解できる</li> <li>・ 障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会資源・関係機関との連携が理解できる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【障害のある人の生活と障害の特性に合わせた支援】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部障害の原因と特性、心臓機能障害</li> <li>2. 呼吸機能障害</li> <li>3. 腎臓機能障害</li> <li>4. 膀胱・直腸機能障害</li> <li>5. 小腸機能障害</li> <li>6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害</li> <li>7. 肝臓機能障害</li> <li>8. 精神障害</li> <li>9. 発達障害</li> <li>10. 難病</li> <li>11～12. 障害に伴う機能変化と自立支援 機能変化と生活への影響、生活と障害、生活上の課題と支援、 障害者を取り巻く環境、手帳、自立支援、QOLを高める支援 他</li> <li>13. 連携と協働 地域におけるサポート体制、多職種連携と協働</li> <li>14. 家族への支援 家族の状況、家族への支援</li> <li>15. まとめ、試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（80％）</li> <li>2. 小テスト（20％）</li> </ol>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」</p>		
備考			

年次・学期	2 年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>医療的ケア</b> 講・演・60時間・2単位	教員名	田中 いづみ 他
概要及び目的	看護師として実務経験を有する教員が資格をとり、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引等制度が理解できる</li> <li>・救急蘇生法の理論と技術習得ができる</li> <li>・感染対策、健康状態の把握ができる</li> <li>・高齢者及び障害者（児）の喀痰吸引・経管栄養の理論と実施ができる</li> </ul>		
授業内容	<p><b>【医療的ケア実施の基礎】</b></p> <p>1. 人間と社会</p> <p>2. 保健医療制度とチーム医療</p> <p>3～4. 安全な療養生活：リスクマネジメント、救急蘇生法 他</p> <p>5～6. 清潔保持と感染予防：感染管理と予防、滅菌と消毒、職員の感染予防 他</p> <p>7～8. 健康状態の把握：バイタルサイン、急変状態の把握 他</p> <p><b>【喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）】</b></p> <p>9～15. 吸引の基礎的知識 呼吸のしくみと観察、喀痰吸引法、家族や利用者の気持ち、感染予防 急変時の対応、子どもの吸引、吸引に伴うケア 他</p> <p>16～21. 喀痰吸引の実施手順 喀痰吸引で用いる器具・機材、清潔操作、留意点、ケア、報告と記録 他</p> <p><b>【経管栄養（基礎的知識・実施手順）】</b></p> <p>22～28. 経管栄養の基礎的知識 消化器系のしくみとはたらき、経管栄養法、実施上の留意点、感染予防 利用者や家族の気持ち、急変時の対応、子どもの経管栄養、ケア 他</p> <p>29～34. 経管栄養の実施手順 経管栄養で用いる器具・機材、清潔操作、技術と留意点、ケア、報告と記録他</p> <p>35. 筆記試験</p> <p>36. 救急蘇生法</p> <p>37～40. 演習と評価 喀痰吸引・経管栄養について実技試験を行う</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験（50%）</p> <p>2. 実技試験（50%）</p>		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」		
備考	演習・実技は服装や髪形を整えることを前提とする		

年次・学期	1年次・ 通年	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>国家試験対策Ⅰ</b> 講義・60時間・4単位	教員名	介護福祉学科教員
概要及び目的	国家試験は2年間の集大成である。1年生の時から学習定着程度を再確認するとともに、学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100%合格を目指し学習を深めることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉士国家試験の概要を理解する</li> <li>・ 国家試験の出題科目とその内容を理解する</li> </ul>		
授業内容	<p>1. 介護福祉士国家試験の概要</p> <p>2-22. 国家試験の傾向と対策について、科目ごとに押さえる</p> <p style="padding-left: 2em;">【領域：人間と社会】</p> <p style="padding-left: 4em;">人間の尊厳と自立</p> <p style="padding-left: 4em;">人間関係とコミュニケーション</p> <p style="padding-left: 4em;">社会の理解</p> <p style="padding-left: 2em;">【領域：介護】</p> <p style="padding-left: 4em;">介護の基本</p> <p style="padding-left: 4em;">コミュニケーション技術</p> <p style="padding-left: 4em;">生活支援技術</p> <p style="padding-left: 4em;">介護過程</p> <p style="padding-left: 2em;">【領域：こころとからだのしくみ】</p> <p style="padding-left: 4em;">こころとからだのしくみ</p> <p style="padding-left: 4em;">発達と老化の理解</p> <p style="padding-left: 4em;">認知症の理解</p> <p style="padding-left: 4em;">障害の理解</p> <p style="padding-left: 2em;">【領域：医療的ケア】</p> <p style="padding-left: 4em;">医療的ケア</p> <p style="padding-left: 2em;">【4領域から総合的に出題】</p> <p style="padding-left: 4em;">総合問題</p> <p>23-26. 模擬試験の実施</p> <p>27-30. 模擬試験の振り返り</p>		
評価方法	試験（中間試験 50%、終講試験 50%）		
テキスト	<p>1. 各教科の教科書</p> <p>2. 配布資料</p>		
備考			

年次・学期	2年次・ 通年	担当科	介護福祉学科		
科目名	<b>国家試験対策Ⅱ</b> 講義・60時間・4単位	教員名	介護福祉学科教員 他		
概要 及び 目的	<p>国家試験は2年間の集大成である。          学習定着程度を再確認するとともに、学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100%合格を          目指し学習を深めることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>① 介護福祉士国家試験の受験申し込み手続きについて主体的にできる。          ② 自身の強化科目を意識した学習計画を立て、主体的に学習ができる。          ③ 模擬問題等において国家試験の合格基準に準じた得点を取ることができる。</p>				
授業内容	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (国家試験受験までのスケジュール説明)</li> <li>2. 演習問題(模擬問題)</li> <li>3. 演習問題(模擬問題)</li> <li>4. 演習問題(模擬問題)</li> <li>5. 演習問題(模擬問題)</li> <li>6. 受験の手引きの申込み、 申込み手続きの説明など</li> <li>7. 演習問題(模擬問題)</li> <li>8. 演習問題(模擬問題)</li> <li>9. 模擬試験(1回目)</li> <li>10. 模擬試験(1回目)</li> <li>11. 模擬試験(1回目)</li> <li>12. 模擬試験の振り返り</li> <li>13. 模擬試験の振り返り</li> <li>14. 演習問題(模擬問題)</li> <li>15. 模擬試験(2回目)</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 模擬試験(2回目)</li> <li>17. 模擬試験(2回目)</li> <li>18. 模擬試験の振り返り</li> <li>19. 演習問題(模擬問題)</li> <li>20. 演習問題(模擬問題)</li> <li>21. 演習問題(模擬問題)</li> <li>22. 模擬試験(3回目)</li> <li>23. 模擬試験(3回目)</li> <li>24. 模擬試験(3回目)</li> <li>25. 模擬試験の振り返り</li> <li>26. 演習問題(模擬問題)</li> <li>27. 演習問題(模擬問題)</li> <li>28. 演習問題(模擬問題)</li> <li>29. 演習問題(模擬問題)</li> <li>30. 演習問題(模擬問題)</li> </ol> </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (国家試験受験までのスケジュール説明)</li> <li>2. 演習問題(模擬問題)</li> <li>3. 演習問題(模擬問題)</li> <li>4. 演習問題(模擬問題)</li> <li>5. 演習問題(模擬問題)</li> <li>6. 受験の手引きの申込み、 申込み手続きの説明など</li> <li>7. 演習問題(模擬問題)</li> <li>8. 演習問題(模擬問題)</li> <li>9. 模擬試験(1回目)</li> <li>10. 模擬試験(1回目)</li> <li>11. 模擬試験(1回目)</li> <li>12. 模擬試験の振り返り</li> <li>13. 模擬試験の振り返り</li> <li>14. 演習問題(模擬問題)</li> <li>15. 模擬試験(2回目)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 模擬試験(2回目)</li> <li>17. 模擬試験(2回目)</li> <li>18. 模擬試験の振り返り</li> <li>19. 演習問題(模擬問題)</li> <li>20. 演習問題(模擬問題)</li> <li>21. 演習問題(模擬問題)</li> <li>22. 模擬試験(3回目)</li> <li>23. 模擬試験(3回目)</li> <li>24. 模擬試験(3回目)</li> <li>25. 模擬試験の振り返り</li> <li>26. 演習問題(模擬問題)</li> <li>27. 演習問題(模擬問題)</li> <li>28. 演習問題(模擬問題)</li> <li>29. 演習問題(模擬問題)</li> <li>30. 演習問題(模擬問題)</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (国家試験受験までのスケジュール説明)</li> <li>2. 演習問題(模擬問題)</li> <li>3. 演習問題(模擬問題)</li> <li>4. 演習問題(模擬問題)</li> <li>5. 演習問題(模擬問題)</li> <li>6. 受験の手引きの申込み、 申込み手続きの説明など</li> <li>7. 演習問題(模擬問題)</li> <li>8. 演習問題(模擬問題)</li> <li>9. 模擬試験(1回目)</li> <li>10. 模擬試験(1回目)</li> <li>11. 模擬試験(1回目)</li> <li>12. 模擬試験の振り返り</li> <li>13. 模擬試験の振り返り</li> <li>14. 演習問題(模擬問題)</li> <li>15. 模擬試験(2回目)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 模擬試験(2回目)</li> <li>17. 模擬試験(2回目)</li> <li>18. 模擬試験の振り返り</li> <li>19. 演習問題(模擬問題)</li> <li>20. 演習問題(模擬問題)</li> <li>21. 演習問題(模擬問題)</li> <li>22. 模擬試験(3回目)</li> <li>23. 模擬試験(3回目)</li> <li>24. 模擬試験(3回目)</li> <li>25. 模擬試験の振り返り</li> <li>26. 演習問題(模擬問題)</li> <li>27. 演習問題(模擬問題)</li> <li>28. 演習問題(模擬問題)</li> <li>29. 演習問題(模擬問題)</li> <li>30. 演習問題(模擬問題)</li> </ol>				
評価方法	筆記試験(中間試験50%・終講試験50%)				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各教科の教科書</li> <li>2. 各自、国試対策のために準備している参考書</li> <li>3. 配布資料</li> </ol>				
備考	<p>※ 外部模擬試験の受験にあたり、受験料が必要。          ※ 介護福祉士国家試験の受験にあたり、受験料が必要。</p>				

年次・学期	2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>法学</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 講義・30時間・2単位	教員名	大田 晋
概要 及び 目的	<p>我われの社会にはさまざまなルールがある。そのルールの中で国（国民）全体あるいは地方公共団体だけを適用対象とした公的ルールは「法」呼ばれ、憲法、法律、政令、省令、条例などが挙げられる。</p> <p>講義では、まず、「法」とはなにかを考え、次に「法」の中でも最も国民生活に密接に関わる「法律」について学ぶ。特に、刑法と民法についてはその基本知識を習得する。さらに「憲法」については条文を読みながら詳しく学習する。</p>		
到達目標	<p>我が国は「法治国家」でありすべての行政は法令に基づいて行われ、また、我われ国民はその法令を遵守（守る）ことが求められている。また、自分の行為には「自由と責任」および「権利と義務」という二つの法的側面があることをしっかりと理解しておかなければならない。</p> <p>上記概要に記述した学習により、この理解と知識（法的精神あるいは法的センス）を身に着けることを目標とする、</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（講義の概要、ねらい、受け方）</li> <li>2. 「法」とは何か</li> <li>3. 「法」の分類と体系</li> <li>4. 「法律」と国民生活（社会）</li> <li>5. 「刑法」</li> <li>6. 「民法」</li> <li>7. 「日本国憲法」① 全体像</li> <li>8. 「日本国憲法」② 制定の経過（歴史）</li> <li>9. 「日本国憲法」③ 国民主権</li> <li>10. 「日本国憲法」④ 基本的人権（総論）</li> <li>11. 「日本国憲法」⑤ 基本的人権（各論）</li> <li>12. 「日本国憲法」⑥ 平和主義（戦争放棄）</li> <li>13. 「日本国憲法」⑦ 国家統治機構（1）（天皇、国会、裁判所）</li> <li>14. 「日本国憲法」⑧ 国家統治機構（2）（内閣、憲法改正）</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験（70%）</li> <li>2. ノート作成状況の点検による理解度の評価（20%）</li> <li>3. 学習態度（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>テキストはとくに使わない。</p> <p>毎回、講義レジュメ（講義のポイントのペーパー）を配布する。</p> <p>憲法条文集を購入すること。（「日本国憲法」童話屋発行）</p>		
備考	<p>A4判ノートを用意し、配布するレジュメプリント（B5判）を左側ページに貼り、講義を聞きながら右ページにノートを取ることを。</p>		

年次・学期	2年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>経済学</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 講義・30時間・2単位	教員名	吉田 信
概要 及び 目的	<p>社会福祉主事を目指すものとして必要な経済学に関する知識を身につける。          経済学を学ぶことにより、経済活動が国民にとってまた自分自身の生活にどのように関連しているのかを学び、社会福祉の視点で捉え理解することをねらいとする。</p>		
到達目標	<p>新聞記事（特に経済関係）を見たり経済ニュース等を聞いて理解できる。また、経済理論を理解し自分の言葉で説明できる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス経済一般Ⅰ（経済と流通の基礎、ビジネスの担い手）</li> <li>2. ビジネス経済一般Ⅱ（企業活動の基礎、ビジネスと売買取引）</li> <li>3. 市場と経済、資源配分の仕組み</li> <li>4. 現代の市場経済とビジネス</li> <li>5. 需要の概念と需要の変化</li> <li>6. 供給の概念と供給の変化</li> <li>7. 価格決定の仕組み</li> <li>8. 市場の役割と課題</li> <li>9. GDPと経済循環、物価と実質GDP</li> <li>10. 経済成長</li> <li>11. 地域ビジネス事情（フィールドスタディとして日本銀行・中国銀行見学）</li> <li>12. 財政と金融</li> <li>13. 企業の国際化・グローバル化</li> <li>14. ビジネスの創造と地域産業の振興</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol> <p>※毎時間講義の最初に、NIE(Newspaper In Education: 新聞を教材として活用)活動として、発表者が新聞記事を準備しプレゼンテーションを行い、その後ディスカッションを行います。          ※フィールドスタディとして、日本銀行岡山支店、中国銀行本店見学を行います。</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験(70%)</li> <li>2. 小テスト(10%)</li> <li>3. 調査・研究発表(プレゼンテーション)・ディスカッション(10%)</li> <li>4. レポート(5%)</li> <li>5. 講義に取り組む姿勢(5%)</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書「ビジネス経済」 佐々木宏夫 実教出版</li> <li>2. 問題集、その都度プリント・新聞記事・資料等を配布</li> </ol>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>児童福祉論</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平
概要及び目的	児童福祉の意義、児童福祉に関する歴史的な流れを学び、さらに現代社会における子どもとその家族が抱える多様な問題に対して考察していく。そして、子どもたちの最善の利益を実現することができる社会について考えていく。		
到達目標	社会福祉の専門職として必要な児童福祉に関する基本的な知識を身につけ、一人ひとりの子どもが心身ともに健やかに発達・成長するために必要な支援、子どもにとって大切な存在である家族を支えるために必要な支援を学ぶ。		
授業内容	<p>授業内容については、以下の内容について講義を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の考え方</li> <li>2. 児童家庭福祉の歴史</li> <li>3. 児童家庭福祉行政の仕組み</li> <li>4. 児童家庭福祉の機関と施設</li> <li>5. 健全育成サービス・母子保健サービス</li> <li>6. 保育サービス・ひとり親家庭への福祉サービス</li> <li>7. 要養護児童への福祉サービス</li> <li>8. 子どもの虐待の防止とその対応①</li> <li>9. 子どもの虐待の防止とその対応②</li> <li>10. 少年非行への対応①</li> <li>11. 少年非行等への対応②</li> <li>12. 障害児福祉サービス①</li> <li>13. 障害児福祉サービス②</li> <li>14. 児童福祉でのソーシャルワーク</li> <li>15. 筆記試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験 90%</li> <li>2. 出席状況 10%</li> </ol>		
テキスト	<p>ミネルヴァ書房 新プリマーズ 「児童家庭福祉」 ・必要に応じて資料を配布する。</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・ 後期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>地域福祉論</b> 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・30 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子
概要 及び 目的	<p>地域福祉の基本的考え方について理解する。  地域福祉の主体と対象について理解する。  地域福祉にかかる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する  地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。  地域福祉の推進方法について理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域福祉の基本的な考え方について理解できる。</li> <li>・ 地域福祉に関わる人や組織について理解できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の基本的な考え方</li> <li>2. 小地域活動とは</li> <li>3. ダイバーシティとは</li> <li>4. 事前学習（保護司、社会福祉協議会、民生委員について）</li> <li>5. 保護司とは（保護司を招いて）</li> <li>6. 社会福祉協議会とは（岡山市社会福祉協議会の職員を招いて）</li> <li>7. 民生委員とは（西大寺地区の民生委員を招いて）</li> <li>8. 権利擁護について学ぼう（1）</li> <li>9. // （2）</li> <li>10. 相談面接について（1）（ジェノグラムとエコマップ）</li> <li>11. // （2）（準備）</li> <li>12. // （3）（面接の実際）</li> <li>13. // （4）（ // ）</li> <li>14. 地域のいきいきサロンについて学ぼう</li> <li>15. 終講テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（60％）</li> <li>2. 授業態度・積極性（20％）</li> <li>3. 提出物（20％）</li> </ol>		
テキスト	<p>参考文献：社会福祉法人・全国社会福祉協議会 「地域福祉論」  ※必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	介護福祉学科				
科目名	<b>社会福祉援助技術演習</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平				
概要及び目的	<p>講義を通して相談支援にとって必要な価値観や倫理観、相談支援に関する基本的な知識などを学ぶ。</p> <p>また、個人で取り組む個人ワーク、グループで取り組むグループワーク、面接場面を想定したロールプレイングを通して相談支援にとって必要な基本的な技法や技術などを学ぶ。</p>						
到達目標	<p>相談支援にとって必要な価値観や倫理観、相談支援に関する基本的な知識などを身につける。</p> <p>さらにクライアントたちの言葉を聴く力、クライアントたちに伝える力というソーシャルワーカーにとって必要な力を身につけていく。</p>						
授業内容	<p>授業内容については、以下の内容について演習を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談支援に必要な基本的な価値観と倫理観</li> <li>2. ソーシャルワークに関する基本的な知識</li> <li>3. クライアントに関わる際に必要なコミュニケーション能力</li> </ol>						
評価方法	<table> <tr> <td>1. 筆記試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>2. 出席状況・受講態度</td> <td>20%</td> </tr> </table>			1. 筆記試験	80%	2. 出席状況・受講態度	20%
1. 筆記試験	80%						
2. 出席状況・受講態度	20%						
テキスト	必要に応じて資料を配布する。						
備考							

年次・学期	2 年次・ 前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>福祉事務所運営論</b> 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・30 時間・2 単位	教員名	藤本 昌弘
概要 及び 目的	福祉事務所の組織、業務や運営に当たっての基本的知識を身に着けるとともに、各種社会資源との連携の重要性を学習する。また、福祉事務所の専門職員としての社会福祉主事の役割と責任を自覚し、基本的な援助技術や各種制度について事例研究や演習を通じて理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉事務所の主要な業務内容について説明できる。</li> <li>・相談、援助業務に必要な技術を理解する。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と福祉事務所の運営</li> <li>2. 福祉事務所の成立と歴史的展開</li> <li>3. 福祉事務所の業務と組織</li> <li>4. 福祉事務所と関係社会資源との連携</li> <li>5. 福祉事務所の運営と民生委員の役割</li> <li>6. 福祉事務所の専門職員とその役割</li> <li>7. 社会福祉主事の専門性</li> <li>8. 社会福祉主事の業務と倫理</li> <li>9. 社会福祉援助技術の展開</li> <li>10. 社会福祉援助技術の実践</li> <li>11. 福祉事務所の業務に関する法制度① <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護制度</li> <li>・生活困窮者自立支援制度</li> </ul> </li> <li>12. 福祉事務所の業務に関する法制度② <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、母子福祉</li> <li>・高齢者福祉</li> <li>・障害者福祉</li> </ul> </li> <li>13. 福祉事務所における自立支援の事例 <ul style="list-style-type: none"> <li>①事例研究</li> <li>②相談面接演習</li> </ul> </li> <li>14. 福祉事務所をめぐる最近の政策動向等と課題</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（100%）</li> <li>2. 出席点（必要に応じて上記点数に20点を限度に加算する。）</li> </ol>		
テキスト	ミネルヴァ書房「福祉事務所運営論」		
備考			

年次・学期	1年次・後期 ～ 2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>社会福祉施設経営論</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 講義・60時間・4単位	教員名	小幡 篤志 長壽 厚志
概要及び目的	福祉サービスの安定的な供給には、提供主体となる事業者の運営の安定性と持続性、そこで働く各職種の職員の能力が最大限発揮されるような条件整備が必要である。そのために、各形態別の組織の根拠的基となる法制度を学ぶとともに、運営管理の基本的な技法や品質管理、リスクマネジメントの手法等を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスを提供する法人組織の種類と運営の概略を理解できる。</li> <li>社会福祉法人のガバナンスと会計管理、情報管理を理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場原理に基づく経営学の各理論と福祉サービスとの本質的な違いを理解する。</li> <li>福祉サービス施設経営における各種マネジメントを理解する。</li> </ul>	
授業内容	<p>&lt;1～15回&gt; 講師：小幡 篤志</p> <p>1回 オリエンテーション 2回 法人とは 3回 社会福祉法人① 4回 社会福祉法人② 5回 医療法人 6回 特定非営利活動法人 7回 営利法人、公益法人 8回 コンプライアンス 9回 ガバナンス 10回 情報管理① 11回 情報管理② 12回 財務管理、会計管理① 13回 財務管理、会計管理② 14回 前提としての社会保障制度 15回 振り返り、テスト</p>	<p>&lt;16回～30回&gt; 講師：長壽 厚志</p> <p>16回 オリエンテーション 16回 組織間連携と促進① 17回 組織間連携と促進② 18回 組織経営の基礎理論 19回 集団力学に関する理論① 20回 集団力学に関する理論② 21回 リーダーシップに関する理論① 22回 リーダーシップに関する理論② 23回 適切な福祉サービスの経営管理① 24回 適切な福祉サービスの経営管理② 25回 適切な福祉サービスの経営管理③ 26回 福祉人材マネジメント① 27回 福祉人材マネジメント② 28回 福祉人材の育成 29回 働きやすい労働環境の整備 30回 総合的な振り返り・テスト</p>	
評価方法	<p>1. 試験（1～15回、16～30回でそれぞれ試験を行う）（各45%） 2. 出席点（各5%）</p>		
テキスト	<p>中央法規出版 最新・社会福祉士養成講座 I 「福祉サービスの組織と経営」</p>		
備考			

年次・学期	1 年次・後期、 2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>社会福祉現場実習指導</b> 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・60 時間・2 単位	教員名	齋藤真智子 太田修平
概要及び目的	社会福祉現場実習の意義について理解した上で、実習へむけた準備（心構え、予備知識、動機付け等）を行っていく。その中で、実習施設の理解を深めたり、記録物の意味について考えていく。さらに、実習後、振り返りを行い、学びを整理していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉現場実習に臨む心がまえと実習目標の立案ができる。</li> <li>・実習で何を学びたいのか、明確にできる。</li> <li>・実習での学びを整理し、発表できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅰ」に向けて（意義・目的） <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習ファイル作成</li> </ul> </li> <li>2. 実習施設の種別・専門職の理解</li> <li>3. 実習施設の発表と目標立案（Ⅰ）・実習施設への各種書類作成</li> <li>4. 相談援助職の理解（1）（養護老人ホーム）</li> <li>5. 相談援助職の理解（2）（障害者支援施設）</li> <li>6. 事前訪問について（電話でアポイント）</li> <li>7. 実習計画表の作成</li> <li>8. 事前訪問の確認</li> <li>9. 事前訪問</li> <li>10. 日誌について</li> <li>11. 実習直前オリエンテーション</li> <li>12～15. 実習の振り返り（・発表 ・お礼状の作成）</li> <li>16. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅱ」に向けて（意義・目的）</li> <li>17. 実習施設の種別・専門職の理解（振り返り）</li> <li>18. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ－①）・各種書類作成</li> <li>19. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ－②）・各種書類作成</li> <li>20. 実習書類の確認</li> <li>21. 事前訪問について（電話でアポイント）</li> <li>22. 実習計画表の作成（Ⅱ－②）</li> <li>23. 事前訪問の確認</li> <li>24. 事前訪問（Ⅱ－②）</li> <li>25. 日誌・記録物について</li> <li>26. 実習直前オリエンテーション</li> <li>27～30. 実習Ⅱ－①②の振り返り（・発表 ・お礼状の作成）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・提出物（80%）</li> <li>2. 授業態度（20%）</li> </ol>		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備考	< 参考文献 > 中央法規出版「社会福祉士 相談援助実習」（第 2 版） （社団法人日本社会福祉士養成校協会監修）		

年次・学期	1年次・後期、2年次・前期	担当科	介護福祉学科
科目名	<b>社会福祉現場実習</b> 〔※社会福祉主事養成科目〕 実習・トータル90時間・2単位	教員名	齋藤真智子 太田 修平
概要及び目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</li> <li>・講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の受容に関する理解力、判断力を養う。</li> <li>・社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助を必要とする高齢者や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を修得する。</li> <li>・職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。</li> <li>・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、相談援助職の役割、施設の概要を理解できる。</li> <li>・自身の傾向について性格や傾向について考え、分析することができる。</li> </ul>		
授業内容	<p>〈主事実習Ⅰ〉(6日間) 高齢者・障害者施設</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 相談援助を担う職種の役割と業務内容を理解する。</li> <li>(2) 施設の種別・機能・役割を理解する。</li> <li>(3) 様々な利用者や家族とのコミュニケーションを通じて、利用者の状況や思いを知る。</li> <li>(4) 相談援助職を担う自身の性格を見つめる。</li> </ol> <p>〈主事実習Ⅱ-①〉(1日間) 福祉事務所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 福祉事務所の役割や業務内容を理解する。</li> <li>(2) 福祉ニーズを要する要援助者像を理解し、そのニーズに対する援助方法を学ぶ。</li> </ol> <p>〈主事実習Ⅱ-②〉(5日間) 高齢者・障害者施設</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 相談業務を担う職種の役割と業務内容を理解する。</li> <li>(2) 利用者やその家族との関わりから要援助者ニーズを理解し、その援助に必要な知識、援助技術の内容を理解する。</li> <li>(3) 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを理解する。</li> <li>(4) 地域における施設のあり方を理解する。</li> <li>(5) 自身の考え方や傾向を見つめ、自覚する。</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導者及び担当教員による総合評価(90%)</li> <li>2. 実習日誌、レポート(10%)</li> </ol>		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備考	<参考文献> 中央法規出版「社会福祉士 相談援助実習」(第2版) (社団法人日本社会福祉士養成校協会監修)		

# SYLLABUS

－講義概要－ 2024年度版

令和6年4月1日発行

- 発行 旭川荘厚生専門学院
- 印刷 株式会社 みつ印刷

